



2026(令和8)年4月25日発行

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課) 住所/〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-15 TEL / 06-6879-5111(代表)

QRコードから本院ホームページをご覧ください

https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

禁転載(この紙面は再生紙を使っています)

マスク着用ルールについて

- 院内感染対策のため、市中の感染症流行状況に併せてルールが変わります。最新の情報は、本院ホームページまたは院内掲示をご確認ください。
個別の状況によって、医師の指示でマスク着用をお願いする場合があります。
せき、くしゃみ、鼻水等の症状がある方は、「マスクを着用する」「ティッシュ・ハンカチなどで口や鼻を覆う(袖、上着の内側もOK)」などの「咳エチケット」で感染予防をお願いします。



病院再開基金へのご寄附のお願い

2025年5月の「統合診療棟」開院から、まもなく1年を迎えます。皆さまからの多大なるご支援により、高度な診療機能の充実と、災害拠点病院としての役割を大きく強化することができました。心より御礼申し上げます。
現在、再開事業の第2弾として、外来棟跡地に「新病棟」を建設する計画を進めております。1993年の全面移転から30年以上が経過し、現病棟は構造的な制約から、近年の医療ニーズに十分に対応することが難しくなってきました。新病棟の建設を通じて、患者さんにとってさらに快適で安らげる療養環境を提供することを目指しております。
本再開発のコンセプトは、「Futurability - 待ち遠しくなる未来へ。」です。新たな病棟の建設に向け、今後も大阪大学医学部附属病院の再開事業に、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。
大阪大学 未来基金

高度医療の提供が使命 連携生かし新医療も

新病院長 インタビュー

大阪大病院には多くの役割がありますが、特に重要な役割が2つあると考えます。まず1つ目は、難病や重症の患者さんに高度医療を提供することです。本院ではさまざまな高度医療を行っています。以前から取り組んできた臓器移植もその一つです。全臓器の移植が可能な病院は本院以外には多くありません。移植医療は手術に加え、ドナー(臓器提供者やご家族への配慮、移植後の管理など、前後にわたる長期的なケアが必要)です。手術件数は2022年65件、2023年74件、2024年82件と着実に増加し

大阪大学医学部附属病院長 坂田 泰史
4月1日、新病院長に循環器内科の坂田泰史教授が就任しました。大学病院を取り巻く環境が厳しさを増す中、どう舵取りをしていくのでしょうか。心臓の病気で2歳の時に手術を受け、医療への恩返しから医師を志したという坂田病院長に、病院運営への抱負をお聞きしました。



難病・重症医療 医学生教育に力
大阪府内や近隣から重篤な患者さんを積極的に受け入れていきます。コロナ禍でも多くの患者さんを受け入れ、その後もここ数年、救命救急科の外來・入院患者数はいずれも増加しています。これらの実績は、高度医療や重症者医療を日常的に提供できている証であり、その背景には現場の医療スタッフの努力があります。2つ目に重要な役割は、阪大医学部の学生を教育することだと考えています。医学教育は大学病院にしかできない役割です。近年、AIの普及などにより医療・医学の情報

経営改善の努力続ける
全国の大学病院の約7割が赤字と公表されていますが、本院の経営も決して楽ではありません。野々村祝夫前病院長が、経費削減や患者さんを受け入れる体制づくりに尽力され、経営は大きく改善しましたが、依然として国の運営費交付金や府の補助金などに頼らざるを得ない状況です。さらなる改善に向け、患者さんをより多く受け入れ、適切な治療により早期退院を実現し、次の患者さんを受け入れる取り組みを引き続き進めていきます。また、これまで同様、コスト削減に向けた職員

順調な統合診療棟
昨年5月に開院した統合診療棟は順調に稼働しています。初診患者数が増加し、入院対応も可能となったことで、病

床稼働率は前年より向上しました。これは機能の充実による成果と考えています。中でも6階のアイセンターは、世界最高水準の眼科医療を提供していると自負しています。手術件数や稼働率も大きく向上しており、今後はIPS細胞を用いた再生医療など、さらなる高度医療への発展が期待されます。また、5階の総合周産期母子医療センターでは、少子化の中で進む産科医療の集約化に対応できるインフラと体制を整えています。患者数は前年より延べ2000人以上増加し、病床数は従来の約1.5倍となり、ほぼ満床の状態です。阪大には出産や生殖医療に関する世界レベルの研究



令和8年度 執行部一覧
病院長 坂田 泰史
副病院長 江口 英利, 織田 順, 武田 理宏, 鍋谷 佳子
病院長補佐 北畠 康司, 貴島 晴彦, 宮川 繁, 小川 和彦, 下村伊一郎, 新谷 康, 小玉美智子, 野々村祝夫, 川村 篤

「支援したくなる」病院へ
2026年度には診療報酬改定が予定されていますが、

阪大が持つ多様な臨床・研究講座に加え、他学部とも連携し、新たな臨床医療を創出していきたく考えています。また、このような姿勢を医学部に伝えることが、将来の医療を背負って立つ人材の育成につながります。こうした理念を職員と共有し、皆さまから「支援したい」と思っているだけではない病院となるよう、全力で取り組んでまいります。

また、患者支援アプリ「ウエルコネ」の利用率は現在約3割です。ボタン一つでオンライン決済が可能となり、会計窓口に立ち寄ることなく帰宅できる利便性を患者さんにお伝えし、利用促進を図っていきます。

阪大が持つ多様な臨床・研究講座に加え、他学部とも連携し、新たな臨床医療を創出していきたく考えています。また、このような姿勢を医学部に伝えることが、将来の医療を背負って立つ人材の育成につながります。こうした理念を職員と共有し、皆さまから「支援したい」と思っているだけではない病院となるよう、全力で取り組んでまいります。

本院の役割を十分に果たすためにはなお不十分であり、国や社会、さらには個人からの支援が必要です。私たちは、高度医療と重症患者さんの診療を行いながら、医学生を教育するという使命を持っています。高度医療と重症患者医療を支えるためには、「3つのS」が重要です。1つ目のSafety(安全)は、医療安全、職員の労働安全、院内の防犯を含む身体的安全を指します。2つ目のStability(安定)は、支援していただける方々を増やし、経営基盤を安定させることです。3つ目はSynergy(相乗効果)です。

阪大が持つ多様な臨床・研究講座に加え、他学部とも連携し、新たな臨床医療を創出していきたく考えています。また、このような姿勢を医学部に伝えることが、将来の医療を背負って立つ人材の育成につながります。こうした理念を職員と共有し、皆さまから「支援したい」と思っているだけではない病院となるよう、全力で取り組んでまいります。

令和7年度 防災訓練
2026年10月31日(土)、上町断層帯を震源とするマグニチュード7.5(震度6強)の直下型内陸地震が発生したとの想定で、令和7年度の防災訓練を実施しました。今回、統合診療棟(免震構造)が開院後に実施する防災訓練としては初めてとなります。1階では看護部が、エントランスにトリアージエリア、会計待合に中等症エリア、患者包括サポートセンター前に指揮所エリア、各外来待合には軽症エリア及び遺体安置エリアの設置訓練を行いました。また2階の西側ロビーでは災害対策本部を設置し、病院長をはじめとする本部長による運用訓練も実施しました。今後も訓練を重ね災害対応能力の向上を図ってまいります。



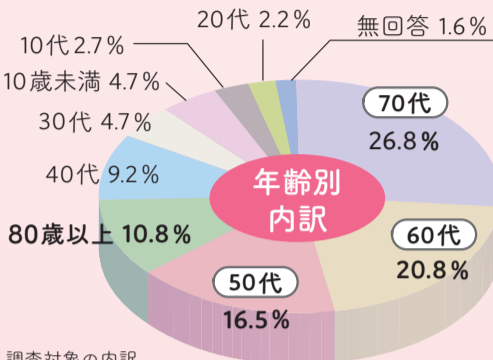
病院ボランティア 「ふれ愛」
ご応募お待ちしております
本院では、ボランティア活動をしていただける方を広く募集しています。病院ボランティアは、外来や入院中の患者さんのために、温かい活動をしていただく重要な一部門です。また、職員の眼の届きにくい部分についてご指摘いただく貴重なご意見役とも考えています。特別な資格は必要ありません。どなたでも参加できます。
詳しくは阪大病院HP「ボランティアの募集」をご確認ください。
https://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp/recruit/volunteer.html

入院患者さん



平均 **91.9%**
(回答数 = 600)

満足



調査対象の内訳

入院患者さん 満足度ランキング

ベスト5		
1位	職員の身だしなみ	99.1%
2位	リハビリ職員の説明や態度、言葉遣い	98.6%
3位	本人確認を行い間違いなく伝えられている	98.4%
4位	薬剤師の説明や態度、言葉遣い	98.2%
5位	検査室はきれいで、整理整頓されている	97.6%

ワースト5		
1位	トイレや浴室の数、清潔さや快適性	73.9%
2位	携帯電話やインターネットの使用における不便	78.8%
3位	エレベーターや廊下、手すりなどの使い勝手	78.9%
4位	個室料金に見合った環境	79.1%
5位	苦情の際、相談窓口やご意見箱の設置場所について	79.3%

※小数点以下四捨五入

患者満足度調査

結果発表



外来患者さん、入院患者さんを対象とした満足度調査にご協力をいただき、ありがとうございました。調査結果をご報告いたします。

調査期間
外来 2025年8月25日～29日の5日間
入院 2025年10月1日～21日の21日間

調査結果

外来患者さんの86.3%、入院患者さんの91.9%の方に、「満足」「やや満足」のご回答をいただきました。満足度の低い項目は、外来では「駐車場の広さや台数等」「警備・清掃員等の態度や言葉遣い」、入院では「トイレや浴室の数、清潔さや快適性」「携帯電話やインターネットの使用について」でした。
 これからも患者さんにとって心地よく、治療に専念できる環境を整えていくため、より多くの患者さんにご意見を伺いたいと思っておりますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

具体的なコメント例

- ### 入院患者さん
- 良い先生に出会えて嬉しい。
 - 医師・看護師の皆様には大変丁寧に良くしていただきました。
 - 温かく見守ってくださったスタッフの皆様に感謝しています。
 - 快適な入院生活を過ごすことができ大変満足しております。
 - 食事がとても美味しかったです。
 - インターネットのつながりが悪い。回線環境を良くしてほしい。
 - トイレ・お風呂がきれいじゃない。
 - 院内の案内図が非常に分かりにくい。
 - 入院決定日の通知をもう少し早くしてほしい。

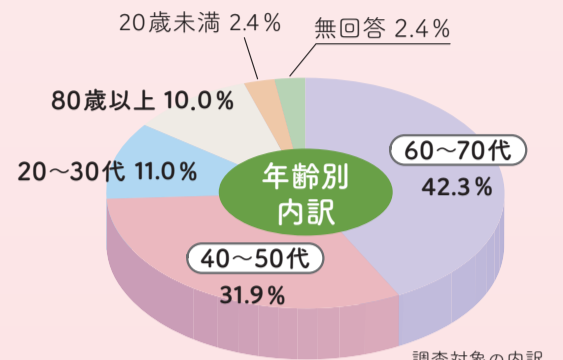
- ### 外来患者さん
- 医師・看護師は献身的に治療していただきました。大変感謝しています。
 - 職員全体で患者に寄り添い、とても安心できる。
 - 院内はいつも清潔で行き届いた環境です。
 - ウェルコネアプリの診察お知らせはありがたい。
 - 駐車場から病院まで遠く、駐車入庫に時間がかかる。
 - 駐車場が狭い。
 - 診療科の待ち時間が非常に長い。
 - 会計処理に時間がかかった。
 - 椅子が少なく、立って待った。

外来患者さん



平均 **86.3%**
(回答数 = 1,265)

満足



調査対象の内訳

外来患者さん 満足度ランキング

ベスト5		
1位	禁煙対策の徹底	98.7%
2位	診察室は清潔かつ、整理整頓されている	98.6%
3位	医師は患者さんのプライバシーに配慮している	98.2%
4位	技師の態度や言葉遣い	97.7%
5位	看護師の態度や言葉遣い	97.5%

ワースト5		
1位	駐車場の広さや台数等利用のしやすさ	41.0%
2位	警備員・清掃員等の態度や言葉遣い	56.4%
3位	施設内の案内表示	57.9%
4位	売店の場所や品ぞろえ	64.4%
5位	自動販売機の場所や品ぞろえ	71.4%

※小数点以下四捨五入

令和8年度

「病院教授」の称号付与について

病院教授の称号は、大阪大学医学部附属病院における診療・研究・教育の充実のため、特に臨床面で優れた業績が認められる者に対して付与しているものです。

令和8年度は下記の19名に「病院教授」の称号を付与することを決定しました。

番号	診療科等名	氏名	職名
1	糖尿病・内分泌・代謝内科	片上 直人	准教授
2	呼吸器内科	平田 陽彦	講師
3	免疫内科	西出 真之	講師
4	老年・高血圧内科	岩嶋 義雄	准教授
5	消化器外科1	植村 守	准教授
6	消化器外科2	黒川 幸典	准教授
7	乳腺・内分泌外科	多根井 智紀	准教授
8	眼科	松下 賢治	准教授
9	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	佐藤 崇	講師
10	皮膚科	種村 篤	准教授
11	脳神経内科	奥野 龍禎	准教授
12	小児科	石田 秀和	准教授
13	泌尿器科	河嶋 厚成	准教授
14	手術部	野田 剛広	准教授
15	輸血・細胞療法部	加藤 恒	准教授
16	卒後教育開発センター	河盛 段	准教授
17	移植医療部	上野 豪久	特任准教授(常勤)
18	がんゲノム医療センター	佐藤 太郎	准教授
19	未来医療開発部未来医療センター	岡崎 利彦	特任准教授(常勤)

※上記の称号付与者の職名等は令和8年4月1日現在のものです。



今年度の標語が決定

令和8年度 優秀標語表彰式

3月27日、病院長室において、野々村病院長から4名の優秀標語作成者に表彰状と副賞が授与されました。
 患者サービス検討委員会では、職員の一一人が患者さんの立場に配慮できるよう努めるとの趣旨で、接遇・マナー向上に関する標語を掲げております。
 このたび、院内で標語を募集し、患者サービス検討委員会で検討した結果、次のとおり優秀作品を決定いたしました。

4～6月期	「広げよう 職種を超えた 助け合い」 (内分沁・代謝内科学行平 彩子さん)
7～9月期	「見逃すな いつもと違う 違和感を」 (医事課 松田 晃蔵さん)
10～12月期	「安心を すべての患者と スタッフに」 (医事課 藤井 歩美さん)
1～3月期	「その対応 患者ファースト 忘れずに」 (医事課 柏木 美由紀さん)

新 診療部門長等 ごあいさつ (2026年4月1日就任)



くぼ たてき
久保 盾貴

● 感覚・皮膚・運動系科部門長

本部門は眼科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、整形外科、皮膚科、形成外科、リハビリテーション科からなり、QOLの維持に寄与するとともに、悪性腫瘍を含む幅広い疾患に対応しています。各診療科が相互に連携しながら、他部門とも協力し、今後も最適で安全な医療の提供に努めてまいります。



きしま はるひこ
貴島 晴彦

● 脳神経精神科部門長

本部門には麻酔科、神経科・精神科、脳神経内科、脳神経外科の4つの診療科が所属しています。麻酔科は手術を含め多くの場面で患者さん負担の軽減に貢献しています。神経精神疾患の分野では院内の多くの他の部門とも連携しています。最近では新しい治療が開発され、また新たな知見がたくさん報告されている分野です。患者さんにはいち早くこれらをお届けいたします。



ののむら のりお
野々村 祝夫

● 女性・母子・泌尿生殖科部門長

阪大病院では、お互いに密に関連する、産科婦人科、泌尿器科、小児科を女性・母子・泌尿生殖科診療部門として大きな枠組みにしています。産科婦人科と泌尿器科は卵子や精子の凍結保存、補助生殖技術による不妊治療や生殖機能の温存という点で密な連携をしています。また、産科婦人科と小児科は高難度の出産とその後の新生児治療などを行っています。



よしだ たけし
吉田 健史

● 救急・集中治療科部門長

本部門は、救命救急科と集中治療科から構成され、院外および院内の重症患者さんを対象に、高度先進医療を集学的に提供し社会復帰を目指す使命を有しております。救命救急科と集中治療科が手を取り合って「one team」として、一人でも多くの重症患者さんを救命し社会復帰へ向かうように全力を尽くしてまいります。今後とも温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



のだ たけひろ
野田 剛広

● 手術部長

手術部は2025年に統合診療棟に移転し、手術支援ロボット、術中MRIなどの最先端の手術関連機器を揃えています。先進的かつ高度に安全管理された手術室で、地域医療の最後の砦として、皆様安心して手術を受けていただけるよう、尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

● 材料部長

材料部では、手術室、検査室、病棟で使用された手術器具や内視鏡などの医療機器の洗浄・滅菌業務を行っています。病院全体に再利用可能な材料を供給する部門であり、病院機能を下支えています。滅菌技師資格をもった専門職員とともに、皆様安心して治療に専念できるよう、尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

● サプライセンター長

サプライセンターでは、病院における医療用消耗品の在庫管理を行い、効率的で安定した供給体制を維持しています。病院機能の維持のために重要な部門と考えています。皆様安心して治療に専念できるよう、尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



こやま ゆきこ
小山 有紀子

● 臨床工学部長

本部署は、50名の臨床工学技士を擁する国内有数の大規模な臨床工学部です。医療機器の多様化に伴い、臨床工学技士の需要はますます高まっております。部の体制も拡充しつつある中、技士の皆様と力を合わせ、大阪大学の医療のさらなる向上に努めてまいります。何とぞよろしくお願い申し上げます。



なべたに よしこ
鍋谷 佳子

● 看護部長

阪大病院の看護部は「患者さんにとって最善の看護」を常に考え、さまざまなことに取り組んでいます。今後、医療を取り巻く社会は大きく変化すると考えますが、「患者に寄り添う看護」を柱として、患者さんが安心して医療を受けていただけるような質の高い看護を提供し続けたいと考えています。

● 看護部キャリア開発センター長

看護部キャリア開発センターは、院内外の看護職員へ様々な教育を提供してきました。しかし時代の変化に伴い、将来を見据えた人材育成を推進するため、病院、医学部保健学科、地域との連携・協働を強化しています。今後も充実した人材育成とキャリア支援を推進し地域全体の看護の質向上に繋げたいと考えています。



えぐち ひでとし
江口 英利

● 未承認新規医薬品等診療審査部長

本院は、基本方針の一つとして「高度な医療の実践と未来医療の開発」を掲げており、その実現には、十分な審査を経たうえで未承認新規医薬品を使用できる体制の整備が不可欠です。未承認新規医薬品等診療審査部は、これらの医薬品の安全性および妥当性を客観的に審査し、適切な手続きを経て患者さんに提供できるよう活動しています。

● 診療支援センター長

本院の診療機能を向上させ、ひいては患者さんの利便性を高めることを目指し、本院では多数の医師事務作業補助者が業務に従事しています。診療支援センターは、医師事務作業補助者の業務管理を通じて、診療支援体制の一層の充実を図ってまいります。何とぞご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



やまもと こういち
山本 浩一

● 患者包括サポートセンター長

本センターは、患者相談・地域連携・入退院支援の3部門で構成され、患者サービス向上、地域連携の強化、入院から退院までの切れ目のない支援を担います。各部門を有機的に結び、地域と院内をつなぐ体制の下、患者さん一人一人の価値観を尊重し、入院前から退院後・在宅療養への移行まで継続的に支援してまいります。



おがわ かずひこ
小川 和彦

● 放射線部長

放射線部においては、レントゲン、CT、MRI、血管造影検査、放射線治療、核医学検査・治療など多岐にわたる検査や治療を行っています。最先端の医療を実現すべく、最新機器の導入、検査技術のスキルアップを行っています。また、患者さんを中心としたチーム医療を目指し、プライバシーなどにも配慮した診療を心がけております。



たかはし まさのり
高橋 正紀

● 遺伝子診療部長

当部では、難病、がん、先天性の疾患、出生前検査など幅広い領域でゲノム医療を提供しています。認定遺伝カウンセラーを中心としたチームで、遺伝カウンセリングや遺伝学的検査を通じて診断や治療の選択を支援し、患者さんとご家族に寄り添い、安心してご相談いただける体制づくりに努めてまいります。



こだま たかひろ
小玉 尚宏

● 内視鏡センター長

統合診療棟への移転により検査室数の増加とともにセンター機能を大きく拡充し、全室で鎮静下内視鏡検査が可能となりました。患者さんに優しい検査・治療の提供を推進するとともに、最新の内視鏡機器やモニタリングシステムを整備し、安全で質の高い最先端の診療に努めてまいります。何とぞよろしくお願い申し上げます。



たかはら みつよし
高原 充佳

● 超音波検査センター長

超音波検査は、体の中で起きている異常を非侵襲的に(体にやさしく)検出することができ、現代医学になくてはならない検査法となっております。今後さらに超音波検査センター職員が一体となって、病院の発展に尽力してまいります。何とぞよろしくお願い申し上げます。



ののむら のりお
野々村 祝夫

● 前立腺センター長

前立腺センターは前立腺がんや前立腺肥大症患者さんのために設置されたバーチャルな組織です。前立腺がんの患者さんに対しては、診断から治療までを泌尿器科と放射線診断科、放射線治療科、核医学科とともに行っています。局所治療に関しては、ロボット支援下手術と粒子線治療以外のすべての放射線治療のオプションを有しています。

● 生殖医療センター長

本センターは不妊/不育症治療に対する社会的ニーズの高まりに応えるため、泌尿器科・産科婦人科が中心となって設置されたもので、男性不妊・女性不妊の双方に同時に対応可能です。小児科・総合産科産期母子医療センター・小児外科・遺伝子診療部とともに、妊娠後の産科管理や遺伝相談を含む多岐にわたる治療を提供しています。



あだち ひろよし
足立 浩祥

● 睡眠医療センター長

本センターは機能的ユニットとして睡眠診療を行っており、現時点で統一された外来窓口はありませんが、神経科・精神科、小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、糖尿病・内分泌・代謝内科、循環器内科、老年・高血圧内科などの医師が、各々の専門性を生かした睡眠関連疾患の診療を提供しております。質の高い睡眠医療を提供できるよう努めてまいります。



わたなべ みほ
渡邊 美穂

● 胎児診断治療センター長

多職種連携のもと、胎児診断・治療から出生後までのシームレスな包括的支援を提供してまいります。また、胎児治療・胎児手術も積極的に取り入れ、「当院だからこその医療」にこだわり、発展させてまいります。患者さんご家族の未来に寄り添い、教育・研究および次世代育成にも尽力いたします。今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



きたばやし やすじ
北島 康司

● 難病医療推進センター長

難病医療推進センターでは、診断から治療、生活支援までを一体として支える体制を強化します。多職種が連携し、子どもから大人まで、患者さん一人ひとりに合った医療を提供するとともに、地域とつながりながら、安心して治療を受け続けられる環境づくりに努め、相談支援や情報提供にも力を入れてまいります。

● 子どものこころの診療センター長

子どものこころの診療センターでは、発達やこころの課題を抱えるお子さんとご家族に寄り添い、丁寧で継続的な支援を行います。小児科、神経科・精神科、産科などの医師や看護師、心理士、ソーシャルワーカーなどが連携し、安心して相談できる環境を整えます。子どもたちの成長を支える医療の充実にも努めるとともに、早期相談と継続支援を重視して取り組んでまいります。



さとう かずひこ
佐藤 和彦

● 医療技術部長

医療技術部は、検査、放射線、リハビリ、臨床工学の各部門に所属する医療技術職員と救急救命士で構成されています。各領域の専門技術と医療機器に関する知識・経験を生かし、多職種と連携して診療科を支えることで、安全で質の高い医療の提供に努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

PHOTO ホスピタルミニ・ニュース TOPICS

市民公開フォーラム 「大切な想いを伝える準備 - 医療者と考える"これから"」

2026年2月11日(水・祝)



- 司会：化学療法部 福島 健太郎 部長
 ① 後悔しない選択のために：自分らしい時間を最後まで。
 がんゲノム医療センター 佐藤 太郎 病院教授
 ② あなたにとって大切なものは何ですか？
 ～病気があっても、家で自分らしく生きるために～
 おきしる在宅クリニック 沖代 奈央 先生
 ③ 自分が納得して治療を決めていくために
 ～医療者と共に決めていきたいと思います～
 循環器内科 坂本 陽子 特任講師
 ④ 伝えられていますか？あなたの大切な想い
 緩和医療センター 林 みづほ 看護師長
 西尾 敦美 副看護師長
 大野 由美子 副看護師長

本院では厚生労働省による「がん診療連携拠点病院機能強化事業」の一環として、一般の方々を対象にがん診療に関する様々なテーマについて市民公開フォーラムを開催しています。阪大公式YouTubeで公開しましたので、ぜひご視聴ください。

動画はこちら



未来医療フォーラム

例年開催しております「未来医療フォーラム」について、令和7年度は坂口志文先生のノーベル賞受賞においても注目を集めている「免疫細胞治療」に焦点を当て、YouTube配信をいたしました。2026年2月20日から3月2日の間、337回のご視聴をいただき大変好評を得ました。本院の最先端研究を今後も広く知っていただけるよう取り組んでまいります。

ハローワーク出張相談会を開催しています

がん相談支援センターでは、毎月第4火曜日にハローワーク淀川による出張相談会を開催し、治療を続けながらの転職活動、求職活動のポイントや、復職するにあたってのアドバイスなどを行っています。具体的な活動の予定や目的がたっていないだけでも、情報収集などとしてもご相談いただけますので、お気軽にご利用ください。(要予約)



令和7年度 ホスピタリティ賞 表彰式

2026年3月27日(金)



ご意見箱に寄せられた謝意の多かった部署を表彰しました。

- 西8階病棟 乳腺外科、形成外科、皮膚科
- 栄養管理室
- 東5階病棟 婦人科

看護師特定行為研修 6期生の研修が修了しました



特定行為とは、医師が行っている医行為の一部を医師の指示を受けて看護師が行うものです。院内外の看護師22名を対象とした研修が3月に修了しました。修了者がそれぞれの医療施設で患者さんにタイムリーな医療を実施できるよう、阪大病院は医療人の育成に取り組んでいます。



小児科

小児科はグループ別に専門的な診療に当たります。てんかんなどの臨床神経学・心疾患などの循環器学▽小児がんなどの血液・腫瘍学▽栄養・消化器学▽甲状腺疾患などの内分泌学▽腎・骨代謝▽早産などの新生児▽発達障害・睡眠の8グループです。60人を超える医局員(医師)数は全国の大病院で最多クラスで、どのグループにもエキスパートと中堅、若手をバランス良く配置し、知識や経験、技術を持つ医師がそろっているのが最大の強みです。

小児科のモットーは「明るく楽しく」。医師同士は仲が良く、みんな生き生きと仕事をしています。約4割を女性が占め、産休や育休もきちんと取れる体制です。全国からの小児科専攻医登録の希望者は一昨年17人、昨年18人と2年連続全国1位となり、今年も11月の締め切りを前に20人を超えました。

地域の病院との交流を深めており、紹介の患者さんは増えており、出生数が減少する中、小児科の入院病棟は平均稼働率95%と満床に近い状態です。小児科だけでなく、例えば心臓病の場合は心臓移植手術、骨肉腫では整形外科などと連携しての治療が可能です。医療レベルの高い診療科がたくさんある阪大病院ならではの強みです。

「明るく楽しい」医療を目指し 長期入院患者の「夢」実現も

長期入院患者の「夢」実現も

入院しているのは白血病や心疾患など難病の患者さんが多く、新生児から中高生までいます。狭い病床での生活に少しでも楽しみを、病棟で夏まつりやクリスマスパーティーなどを開いています。また、入院が半年を超える人には個別に希望を聞き「夢」を実現しています。高校の卒業式などの記念日に出られなかった人には制服や着物姿でカメラマンに写真を撮ってもらい、大相撲が好きな小学生には退院後に春(大阪場所)のマス席をプレゼントしました。これらは専門のスタッフが主治医と話し調整し、皆さんからの寄付を費用に充てています。

先進的な手術室と 高度な安全管理



手術部

手術部は手術室22室を擁し、国立大学でトップの年間約1万2400件(眼科を含む)2024年度実績の手術を完全に実施するための「管理・運営」を行っています。日帰り手術から臓器移植まで、多職種のプロたちが連携して高度で安心・安全な環境を提供

多職種のプロが連携 緊急手術も臓器移植も



手術支援ロボット「Da Vinci(ダヴィンチ)」

スタッフは管理運営を担う医師が5人、看護師84人が所属。30名以上の麻酔科医師が全身麻酔に対応。医療機器のプロである臨床工学技士は8人、診療放射線技師3人、専従の薬剤師が1人います。適切な分業により外科医師や看護師が患者さんへの対応に専念できる態勢を築いているのが本院の特徴です。

24年度の手術実績の内訳は▽心臓血管外科1130件▽産科・婦人科871件▽消化器外科824件▽耳鼻咽喉科・頭頸部外科768件▽泌尿器科717件など。外科系15科、内科系8科が最先端の手術を実施しています。臓器移植件数は24年度で82件であり、阪大病院は移植可能な全臓器の実施設に認定されています。直上階の総合周産期母子医療センターとは直通エレベーターでつながり、専用手術室で超緊急の帝王切開に対応しています。統合診療棟に移転した25年5月以降、局所麻酔で行う眼科の手術はアイセンターで行っています。感染症対策として、臓器移植や心臓手術などを行うための高度で清潔な空調管理を行う「バイオクリーン手術室」が5室あります。患者の取り違えや手順ミスなどの事故を未然に防ぐために厳格な安全確認手順を運用しています。術中MRI撮影が可能な手術室が1室あり、脳神経外科の手術で使用されています。カテーテル治療と外科手術が同時に可能な「ハイブリッド手術室」を2室に増強。鏡視下手術用ロボットが3台、脳腫瘍や人工関節の手術で活躍する「手術ナビゲーション装置」も3台あります。



栄養マネジメント部 下村伊一郎 部長

おすすめ

スマイル御膳



3月23日の夕食に栄養マネジメント部下村部長のおすすめ御膳を実施しました。「召上がった皆さまがスマイルになるような献立」というコンセプトのもと、バターチキンカレーを提供しました。バターの他、ヨーグルト、生クリーム、トマトを加え、さらにスパイスを効かせた風味豊かな味わいにこだわりました。

患者さんからは「いつもと違った雰囲気の食事よかった」「本格的な味がしました」「最高!!」と好評でした。デザートの手作りさくらゼリーでは、春の訪れを感じていただけたのではないのでしょうか。今後もおいしく楽しい食事ができる工夫を考えていきたいと思ひます。

一般治療食献立例

- バターチキンカレー
- 焼野菜の盛合せ
- 玉葱のサラダ
- さくらゼリー